

まちの「今」をお届けします



薬学部校舎で開催され、スマイルエイジングに関心のある多くの市民が参加しました



すべての人が笑顔で年を重ねることができるまちを目指して 健康で長生きのまちづくりフォーラム開催

1月26日、山口東京理科大学で「健康で長生きのまちづくりフォーラム～スマイルエイジング in 山陽小野田～」を開催し、約270人が参加。市では、100歳になっても健康で笑顔あふれる地域づくりを目指しています。このフォーラムは、その実現のために何ができるかを、市民のみなさんとともに考える機会となりました。

はじめに健康寿命等のデータに基づく「市の健康を取り巻く現状」について市職員が報告したあと、東京理科大学の上村直樹教授が「医者に聞きにくい薬の話～知って安心！薬と上手に付き合うコツ～」をテーマに講演。「かかりつけ薬局を持つことが、薬の不要な害から身を守る一歩となる」とアドバイスしました。また、山口東京理科大学の大庭尚子講師が「健康づくりのために運動

はかせない!？」をテーマに講演し、「運動は認知機能に良い影響を与えてくれる。まずは今より10分プラスして歩きましょう」と訴えました。

「笑顔で年を重ねていくために～健康で長生きのまちづくりに向けて～」をテーマにしたパネルディスカッションでは、上村教授、西村公一山陽小野田医師会長、武田健山口東京理科大学薬学部長、藤田剛二市長が登壇。それぞれの立場からスマイルエイジングについて見解を述べました。藤田市長は「笑顔で年を重ねるスマイルエイジングを市の大きな施策とし、このフォーラムがスタートになる。健康は、心身とともに社会的にも良好であることが大事。笑顔で健康な人たちが住むまちスマイルシティ山陽小野田をみんなで作っていきましょう」と来場者に呼びかけました。